

270社に中学生“勤務”

全7校の930人が職場体験

宗像市



職場体験で汗を流す中学生たち

宗像市内全七中学校の「徒らば自宅から通勤」一年生約九百三十人による市内事業所での職場体験事業「ワークワーカー」が八日、始まった。十二日までの五百日間、生徒らは自宅から通勤し、働くことの厳しさを学び、コミュニケーション能力を磨く。八回目となる今年、受け入れ協力を申し出た事業所は過去最多の三百一社にのぼった。このうち、生徒らが希望した病院や飲食店、スーパー、市役所、幼稚園など二百七十社で実習がスタート。初めて受け入れた同市くりえいと二丁目の「寿司めいじん」宗像店「北川牧店」母には、河東中学校の三人が午前十時に出勤し、やりを運ぶ作業や食器洗いなごをこなした。

阿部健一君(母は「何度も食べにきた店なので、調理場の作業に興味があった」)高橋祥太君(「一度に注ぎました。最初は緊張しましたが、ようやく慣れました」)川嶋利之専務は「ラベル張りや箱詰めなどをしていく。10日まではラベル張りも手際よくこなしてくれました。あいさつなども勉強。つなごうと社会人としての基本を教えていきました。出向されるので、い」と話していた。

【中京剛】

「二時間の店内清掃が大変だったと話していた。三人を指導した従業員久間潤勝さん(母は「一人でも中学生にでも言うことは同じ。やる気があれば教える。なければ帰っていいということですね。みんな前向きに素直に仕事をしてくれてうれしい」と話していた。

同事業を主催した同市は昨年九月、参加した中学生九百三十人にアンケート。「事業所の方から教わった重要なことは」の問いには「社会人としてのマナーや礼儀、あいさつの大切さ」「一人の役に立つこと、楽しませや喜び、仕事のやりがい」などという回答が多かったという。

喜び、厳しさを中学生が職業体験

宗像 造り酒屋など70カ所

宗像市の全七中学校の二年生約300人が市内の官公庁や企業などで職場体験をする「ワークワーカー」に取り組み、小学校、スーパー、家庭用品店、病院、5日間、生徒たちは各当持参で自宅から職場に通勤として働くことのできる。地域に視点を当て、

赤間4の造り酒屋、勝原酒造では城山の中の山手奈奈さん、川原亜直さん、高原佳菜さん



酒造にラベルを貼る城山の中の生徒

人の3人が、清酒瓶のラベル張りや箱詰めなどをしていく。10日までの3日間です。15日まではラベル張りも手際よくこなしてくれました。あいさつなども勉強。つなごうと社会人としての基本を教えていきました。出向されるので、い」と話していた。

【中京剛】